

Sun Fire X4800 サーバー Oracle Solaris オ ペレーティングシステム設置マニュアル



Part No: 821-2236-10
2010年7月、Revision A

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	5
製品情報 Web サイト	5
関連マニュアル	5
このドキュメントについて (PDF および HTML)	7
ドキュメントのコメント	7
変更履歴	8
Oracle Solaris 10 OS のインストールの概要	9
OS をインストールする前の準備作業	11
ブートハードディスクの消去方法	11
仮想ディスクの作成	12
Solaris 10 OS のインストール作業	29
インストール方法の選択	30
Solaris 10 ドキュメントの入手方法	31
Solaris OS インストール用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定	32

はじめに

ここでは、関連するドキュメントと、フィードバックを送信するプロセスについて説明します。またドキュメントの変更履歴も示します。

- 5 ページの「製品情報 Web サイト」
- 5 ページの「関連マニュアル」
- 7 ページの「このドキュメントについて (PDF および HTML)」
- 7 ページの「ドキュメントのコメント」
- 8 ページの「変更履歴」

製品情報 Web サイト

Sun Fire X4800 サーバーの詳細については、Sun Fire X4800 サーバーの製品サイトを参照してください。

<http://www.oracle.com/goto/x4800>

このサイトには、次の情報やダウンロードへのリンクがあります。

- 製品情報および仕様
- サポートされているオペレーティングシステム
- ソフトウェアおよびファームウェアのダウンロード
- サポートされているオプションカード
- 外部ストレージオプション

関連マニュアル

次の一覧は、Oracle Sun Fire X4800 サーバーに関連するドキュメントの一覧です。これらのドキュメントとその他のサポートドキュメントは、次の Web サイトで入手できます。

<http://www.oracle.com/goto/x4800>

ドキュメントグループ	マニュアル名	説明
Sun X4800 サーバー固有のドキュメント	<p>Sun Fire X4800 サーバー製品ドキュメント</p> <p>『Sun Fire X4800 サーバーご使用の手引き』</p> <p>『Sun Fire X4800 サーバー設置マニュアル』</p> <p>『Sun Fire X4800 サーバーご使用にあたって』</p> <p>『Sun Installation Assistant 2.3 through 2.4 User's Guide for x64 Servers』</p> <p>『Sun Fire X4800 サーバー Oracle Solaris オペレーティングシステム設置マニュアル』</p> <p>『Sun Fire X4800 サーバー Linux オペレーティングシステム設置マニュアル』</p> <p>『Sun Fire X4800 サーバー Windows オペレーティングシステム設置マニュアル』</p> <p>『Sun Fire X4800 Server Diagnostics Guide』</p> <p>『Sun Fire X4800 サーバーサービスマニュアル』</p> <p>『Sun Fire X4800 Server Safety and Compliance Guide』</p> <p>『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Fire X4800 サーバー』</p> <p>『Sun x64 Server Utilities Reference Manual』</p> <p>保守ラベル</p>	<p>アスタリスク (*) が付いているすべてのドキュメントの統合 HTML 版。検索と索引が含まれる。</p> <p>図を多用した、設定のためのクイックリファレンス。</p> <p>最初の電源投入までの、サーバーの設置、ラック取り付け、および設定方法。</p> <p>サーバーに関する重要な最新情報。</p> <p>サポート対象の Windows または Linux OS の補助付きインストール、ファームウェアのアップグレード、およびその他の作業に使用する Sun のツール。</p> <p>Oracle Solaris OS をサーバーにインストールする方法。</p> <p>サポート対象の Linux OS をサーバーにインストールする方法。</p> <p>サポート対象のバージョンの Microsoft Windows をサーバーにインストールする方法。</p> <p>サーバーの問題を診断する方法。</p> <p>サーバーのサービスと保守の方法。</p> <p>サーバーの安全性および適合性に関する情報。</p> <p>サーバーの Integrated Lights Out Manager のバージョン固有の補足情報。</p> <p>サーバーにインストールされているユーティリティの使用方法。</p> <p>シャーシと CPU モジュールにある保守ラベルのコピー。</p>

ドキュメントグループ	マニュアル名	説明
Sun Integrated Controller Disk Management	『Sun x64 Server Disk Management Overview』	サーバーの記憶域の管理に関する情報。
x86 Servers Applications and Utilities Reference Documentation	『Sun x64 Server Utilities Reference Manual』	サーバーにインストールされているユーティリティの使用方法。
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Documentation (以前の Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメント)	『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Feature Updates and Release Notes』	ILOM の新機能に関する情報。
	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Getting Started Guide』	ILOM 3.0 の概要。
	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Concepts Guide』	ILOM 3.0 の概念に関する情報。
	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface Procedures Guide』	ILOM を Web インタフェースを通じて使用する方法。
	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI Procedures Guide』	コマンドによって ILOM を使用する方法。
	『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Management Protocols Reference Guide』	管理プロトコルに関する情報。

このドキュメントについて (PDF および HTML)

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。トピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で情報が表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

ドキュメントのコメント

製品ドキュメントの品質向上のため、お客様のご意見、ご要望をお受けしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/secure/products-n-solutions/hardware/docs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルとパーツ番号を記載してください。

変更履歴

このドキュメントセットには次の変更が加えられています。

- 2010年4月 - 設置マニュアルのリリース
- 2010年6月 - 設置マニュアルおよびご使用の手引きの再リリース
- 2010年7月 - その他のドキュメントの初回リリース

Oracle Solaris 10 OS のインストールの概要

本書には、サーバーに Oracle Solaris 10 OS をインストールする方法、および Oracle Solaris のインストールマニュアルが提示されています。本書では次の項目について説明します。

説明	リンク
Solaris 10 OS のインストール前に行う準備作業。	11 ページの「OS をインストールする前の準備作業」
ブートディスク上の既存のボリュームを消去する方法。	11 ページの「ブートハードディスクの消去方法」
ブートディスク上に必要な仮想ドライブボリュームを作成する方法。	12 ページの「仮想ディスクの作成」
OS のインストール作業の概要。	29 ページの「Solaris 10 OS のインストール作業」
インストール方法を決定する。	30 ページの「インストール方法の選択」
Solaris OS のインストールマニュアルを入手する。	31 ページの「Solaris 10 ドキュメントの入手方法」
論理ネットワークポートと物理ネットワークポートを特定する。	32 ページの「Solaris OS インストール用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」

OSをインストールする前の準備作業

オペレーティングシステムをインストールするには、事前に特定の作業を行う必要があります。この作業は、OSがブートドライブにすでにインストールされているかどうか、またはこれまでにパーティションが設定されていない新しいドライブであるかどうかによって異なります。

- サーバーのブートハードディスクに Solaris 以外のオペレーティングシステムがインストールされている場合は、Solaris をインストールするために消去しなければならないことがあります。11 ページの「ブートハードディスクの消去方法」を参照してください。
- サーバーに Solaris がプリインストールされていない場合は、サーバーの HBA ソフトウェアを使用して論理ドライブを作成する必要があります。作成しないと、Solaris のインストールプログラムがサーバーのディスクドライブを認識できません。12 ページの「仮想ディスクの作成」を参照してください。
- RAID アレイの一部になっているディスクに OS をインストールする場合は、OS をインストールする前に RAID アレイを設定する必要があります。詳細は、サーバーのディスク管理の各種ドキュメントを参照してください。12 ページの「仮想ディスクの作成」を参照してください。

▼ ブートハードディスクの消去方法

サーバーのブートディスクに不要なオペレーティングシステムがインストールされている場合は、このセクションで説明する方法に従って消去することができます。

始める前に この手順を開始する前に、Tools and Drivers CD を入手してください。



注意-この手順を実行すると、ハードドライブのすべてのデータが消去されます。必要なデータはこの手順を開始する前にバックアップしてください。

- 1 ハードドライブ上の必要なデータをバックアップします。
- 2 サーバーの CD/DVD ドライブに Tools and Drivers CD を挿入します。
サーバーに CD/DVD ドライブがない場合は、リモートコンソール (JavaRConsole) を使用します。『Sun Fire X4800 サーバー設置マニュアル』の「システムコンソールへの接続」を参照してください。

- 3 ツールとドライバのCDからシステムをブートします。
ツールとドライバのメインメニューが表示されます。
- 4 メインメニューから「**Erase Primary Boot Hard Disk**(プライマリブートハードディスクを消去する)」を選択します。
このオプションを選択すると、プライマリハードドライブ上に現在あるすべてのパーティション(診断パーティションを除く)が消去されます。診断パーティションがある場合、これは消去されません。

次の手順 [12 ページの「仮想ディスクの作成」](#)に進みます。

仮想ディスクの作成

オペレーティングシステムをインストールする前に、サーバー上に仮想ディスクを作成して、イメージのダウンロードに必要な領域を確保する必要があります。このダウンロードによってディスクの内容が消去されます。

仮想ディスクは、オペレーティングシステムのダウンロード用の LSI ファームウェアから作成できます。LSI ファームウェアには、サーバーの起動時のみアクセスできません。Windows が起動される前に LSI バナーが表示されているときに、Ctrl キーを押しながら H キーを押すと、LSI インタフェースが表示されます。

注 - 仮想ディスクは、Tools and Drivers DVD の追加ドライバを通じてインストールされる MegaRAID ソフトウェアから作成することもできますが、オペレーティングシステムのインストールには使用しないでください。

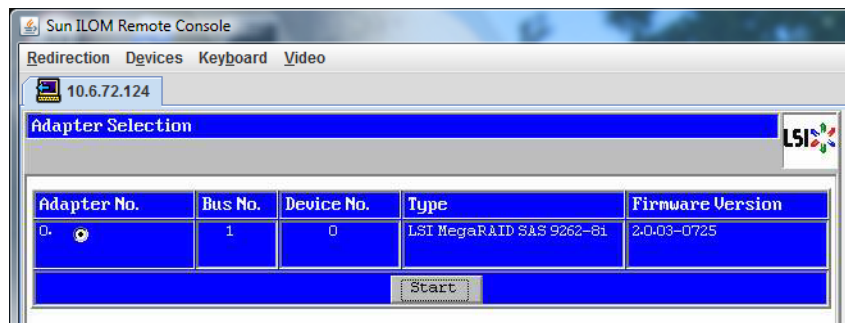
[12 ページの「仮想ディスクの作成方法」](#)を参照してください。

▼ 仮想ディスクの作成方法

- 1 サーバーには、サービスプロセッサ (SP) モジュールの IP アドレスを使用してログインします。
- 2 GUI ウィンドウで「**Remote Control**」タブをクリックして、**iLOM** リモートコントロールを起動します。
- 3 「**KVMS**」タブを選択します。
- 4 「**Mouse Mode**」で「**Relative**」を選択して、「**Save**」をクリックします。

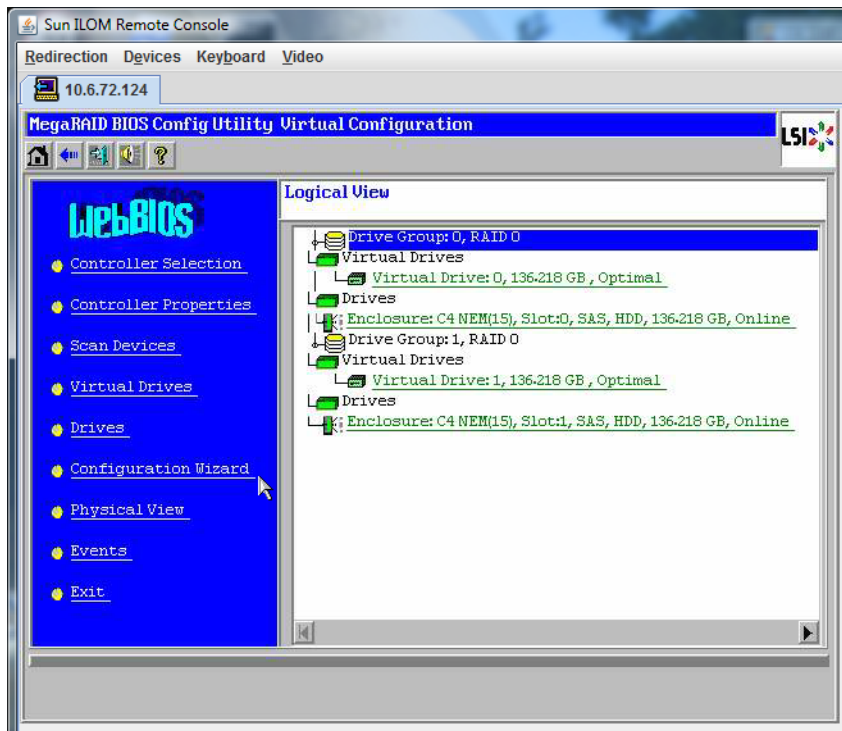
注- 「Relative」 オプションを選択すると、リモートコンソールでマウスをウィンドウからウィンドウに動かすことができるようになります。この手順の最後で、このマウス設定を「Absolute」に変更するよう求められます。

- 5 「Redirection (リダイレクション)」 タブをクリックします。「Redirection」画面で、「Launch Remote Console」をクリックします。
「ILOM 3.0 Remote Console」ウィンドウが表示されます。
- 6 「Devices」メニューで「Mouse」を選択してマウスを有効にします。
- 7 システムを再起動して、LSIバナーが表示されるまで待ちます。バナーページにデバイスが表示されたら、Ctrl キーを押しながら H キーを押します。
- 8 「Adapter Selection」画面で、「Start」をクリックします。

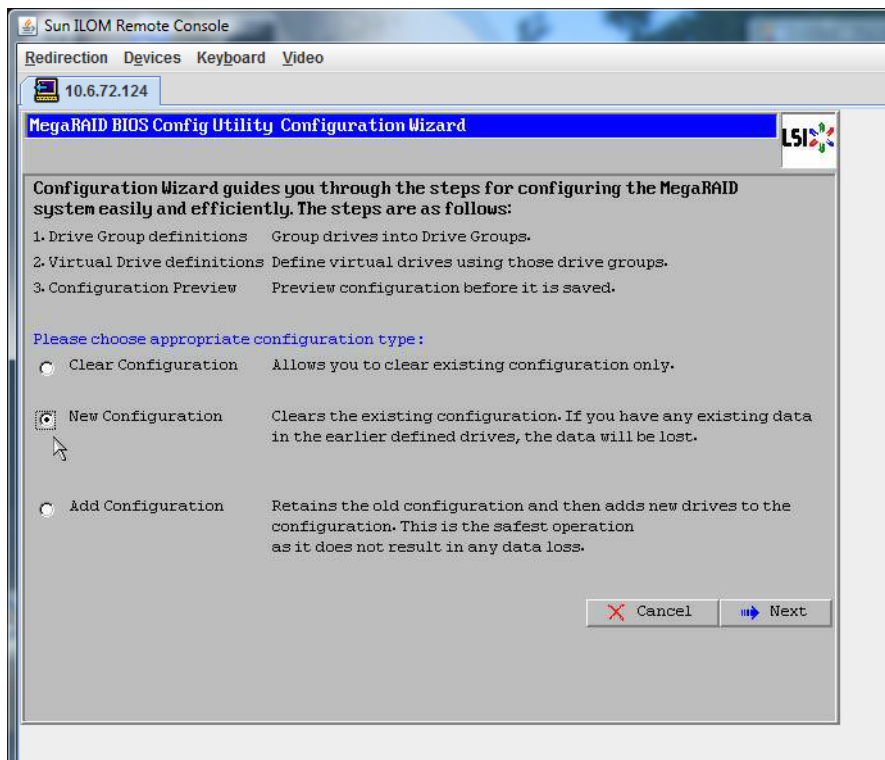


「MegaRaid BIOS Config Utility Virtual Configuration」画面が表示されます。

- 9 「MegaRAID BIOS Config Utility Virtual Configuration」画面で、「Configuration Wizard」を選択します。



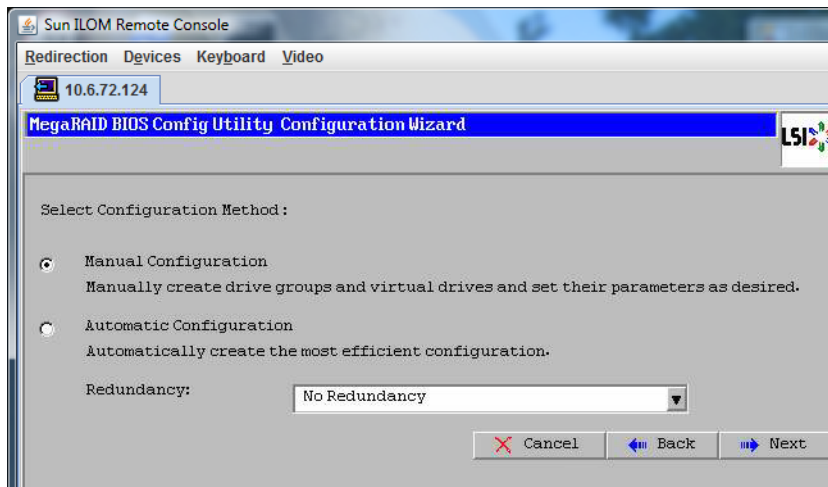
- 10 「Configuration Wizard」画面で「New Configuration」を選択して、「Next」をクリックします。



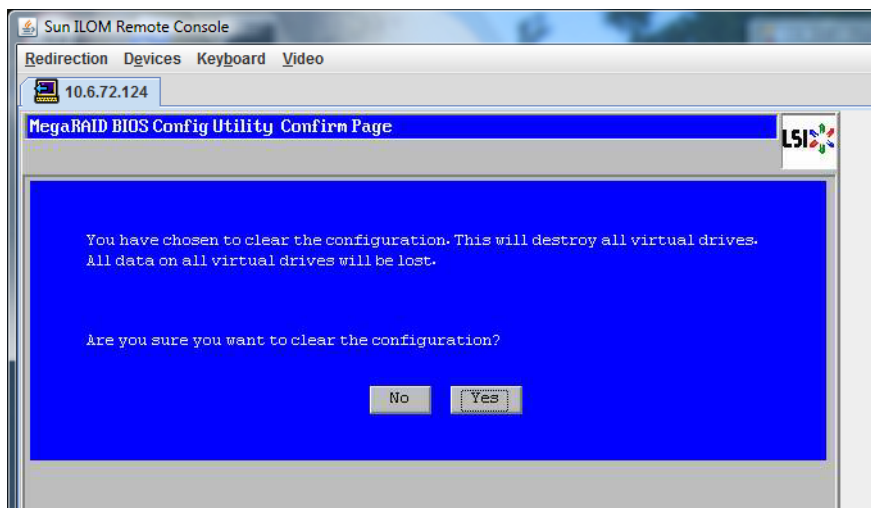
- 11 「Manual Configuration」を選択します。

「Automatic Configuration」を選択すると、システム上のすべてのハードドライブを含む単一の仮想ドライブが作成されます。複数のドライブがストライプセット (RAID0) として設定され、結合された記憶域の単一の仮想ドライブとして表示されます。これは、複数の障害ポイントが発生するため、望ましくない場合があります。

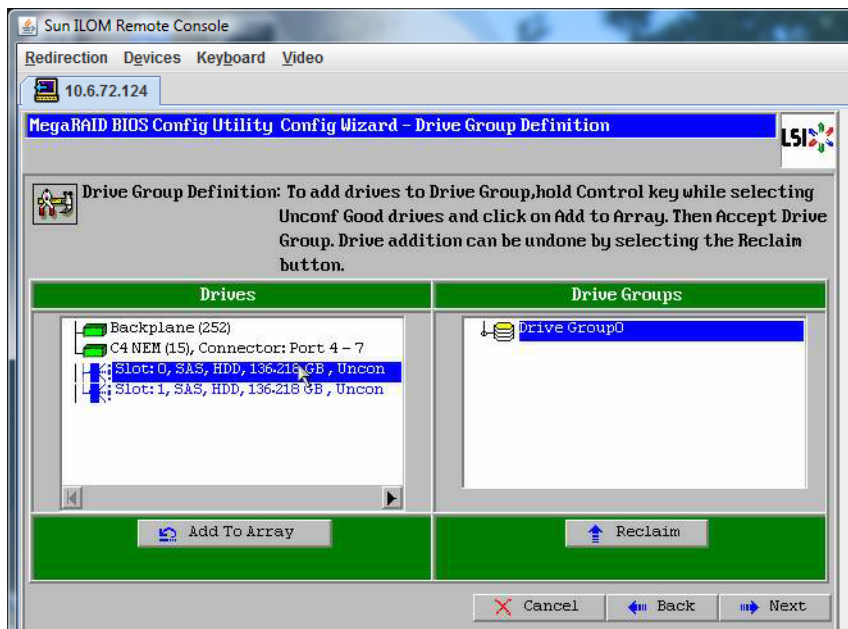
す。つまり、1つのドライブに障害が発生すると、システムが起動しなくなるということです。1つを除き、すべてのドライブを取り外す必要があります。または、「Manual Configuration」を選択して、1つのハードドライブだけを使用して仮想ドライブを作成することもできます。



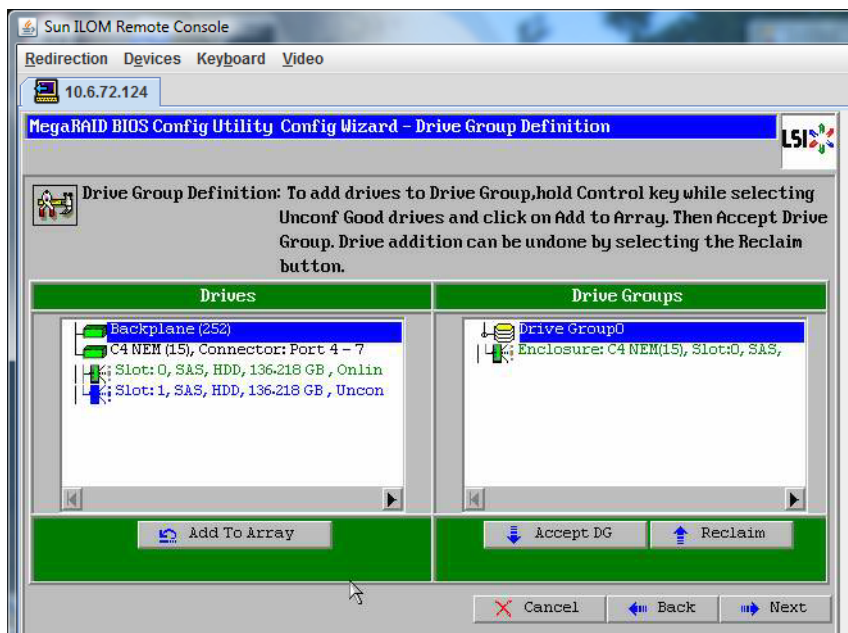
- 12 確認ウィンドウが表示されたら、「Yes」をクリックします。



- 13 「MegaRAID BIOS Config Utility Config Wizard – Drive Group Definition」画面に、システム内のドライブとドライブグループが表示されます。目的のドライブを選択して、「Add To Array」をクリックします。

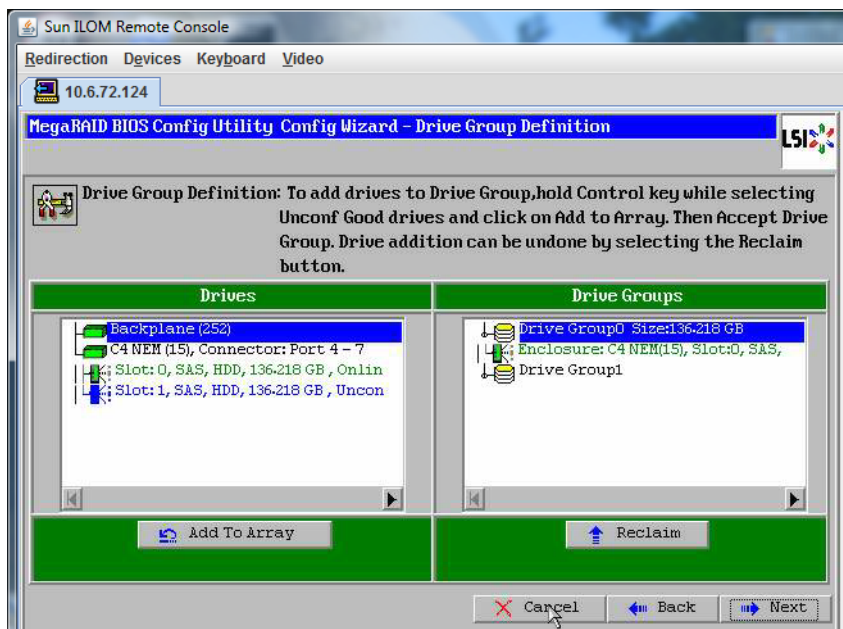


- 14 「Accept DG」をクリックしてドライブグループを作成します。
Drive Group0が表示されます。

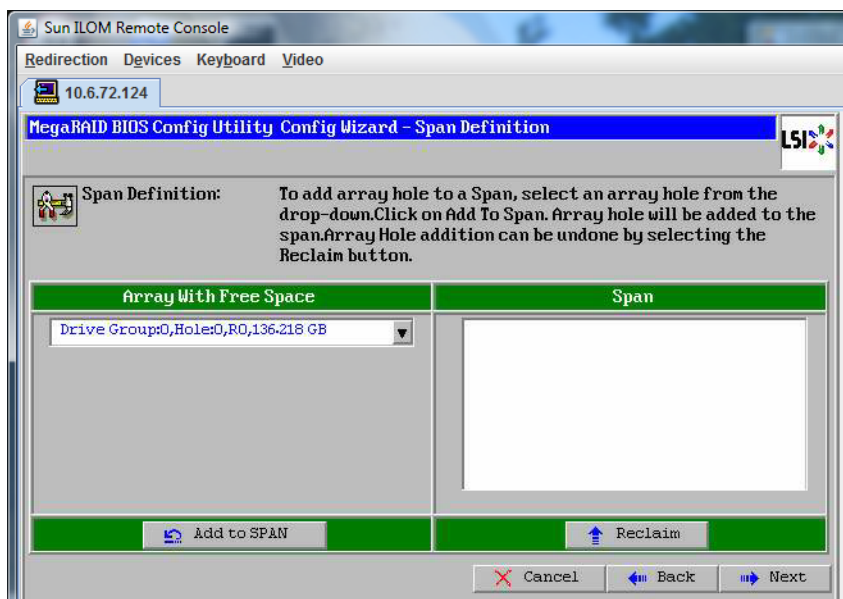


- 15 「次へ」をクリックします。

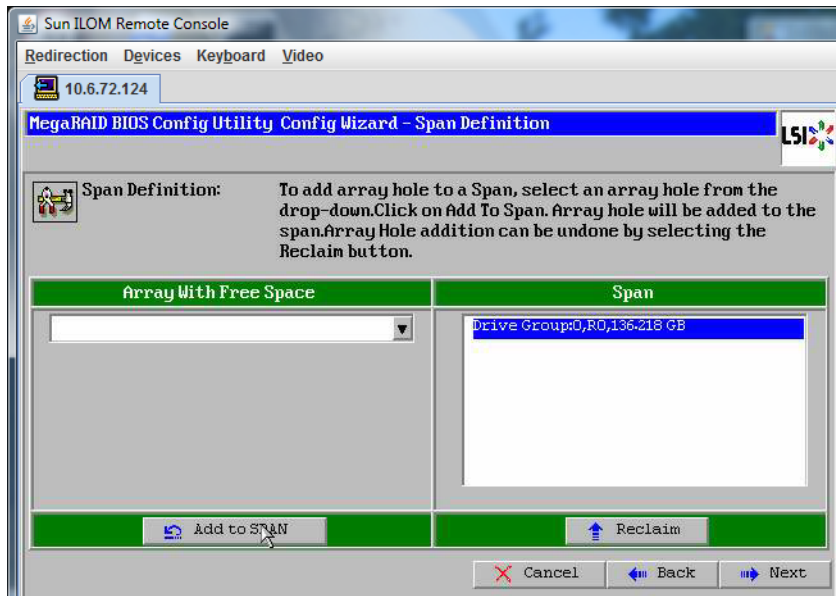
注- ドライブグループの選択は、「Reclaim」ボタンをクリックして取り消すことができます。



- 16 ドライブグループが「Span Definition」ウィンドウに表示されます。「Add to SPAN」をクリックします。

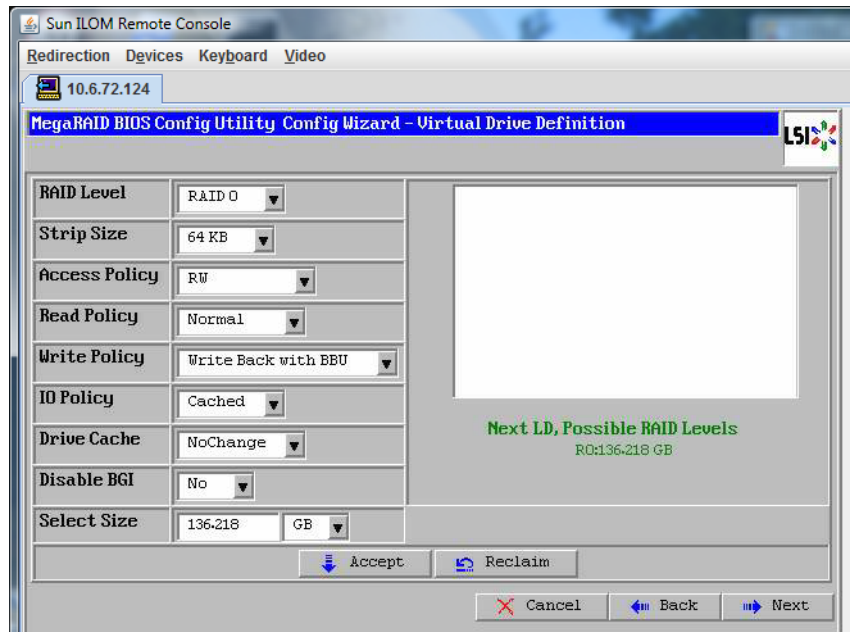


- 17 ドライブグループが「Span」に表示されます。「次へ」をクリックします。

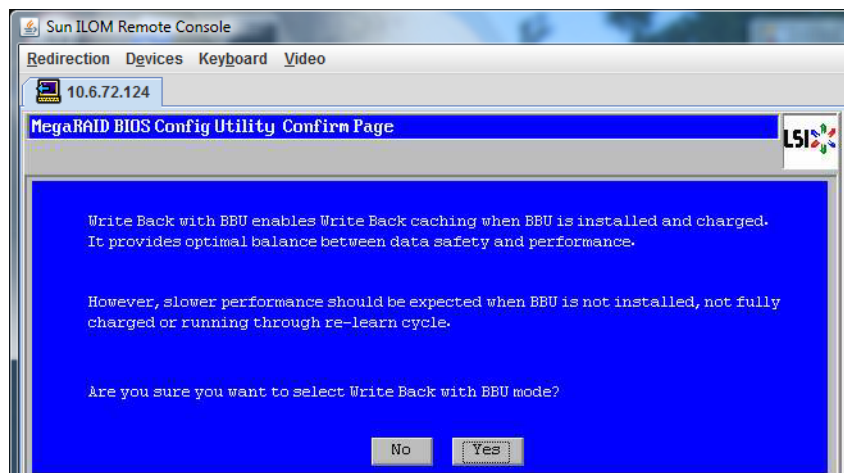


- 18 「Virtual Drive Definition」画面が表示されます。仮想ドライブのRAIDレベルと設定値を設定して、「Accept」をクリックします。

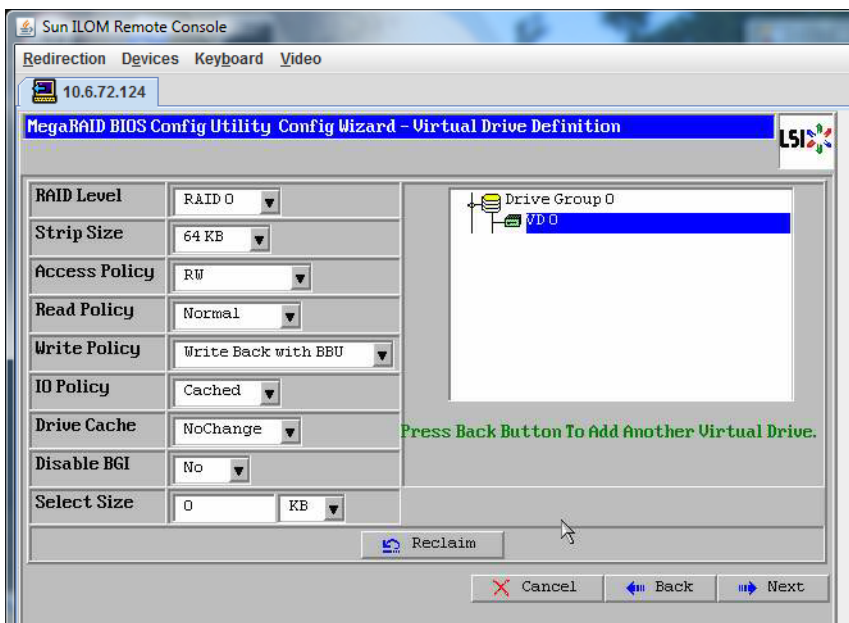
RAIDの設定については、サーバーのディスク管理マニュアルを参照してください。



- 19 「Write Back with BBU mode」を確認するプロンプトが表示されたら、「Yes」をクリックします。

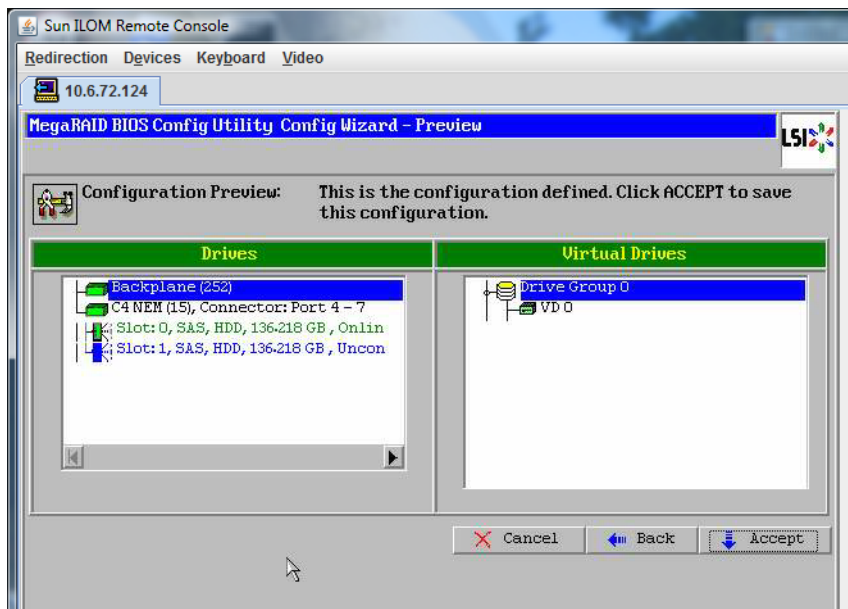


- 20 「Config Wizard」 ウィンドウで、「Next」 をクリックします。

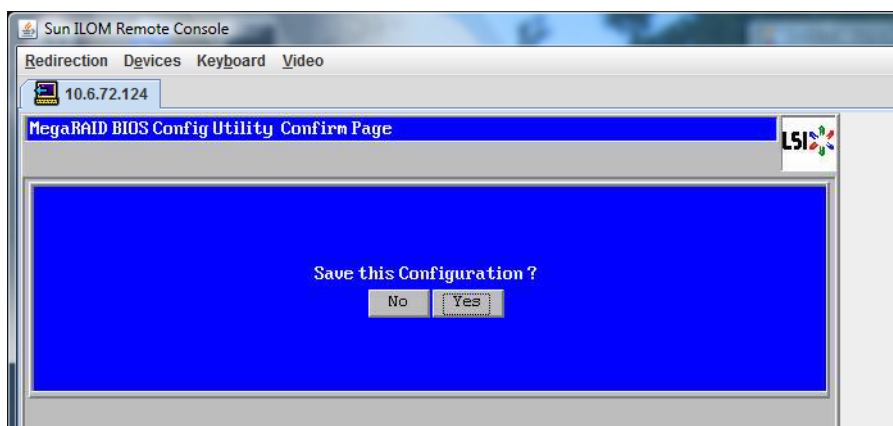


- 21 「Preview」画面が表示されます。仮想ドライブに**Drive Group 0**が含まれていることがわかります。

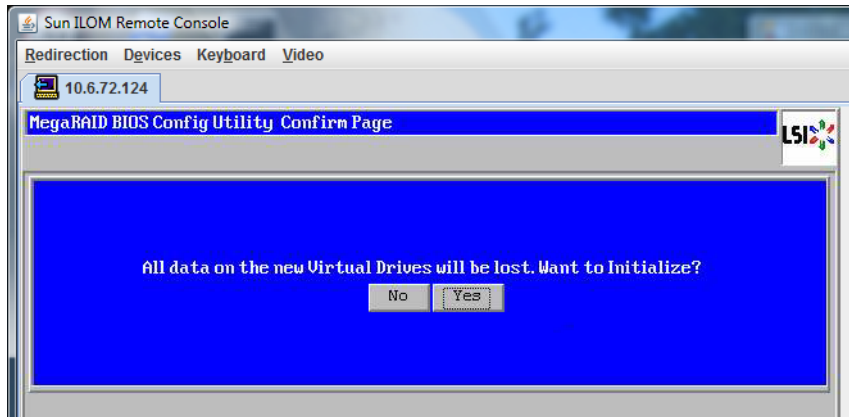
この図は、「Manual Configuration」オプションを使用した単一の仮想ドライブを示しています。



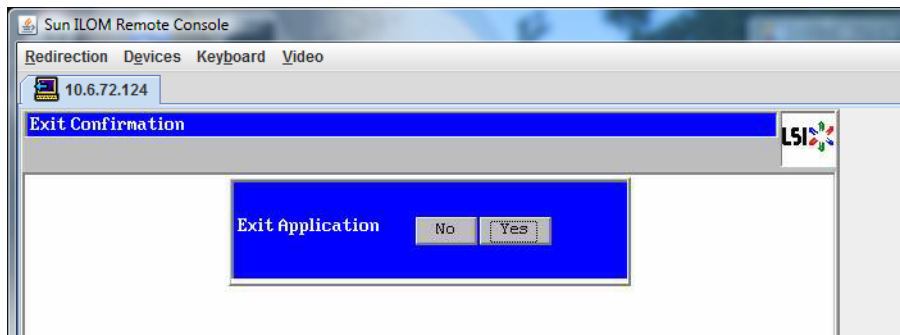
- 22 設定を保存します。



- 23 プロンプトに対して「Yes」をクリックします。仮想ドライブのすべてのデータが削除されます。初期化するかどうかを指定します。



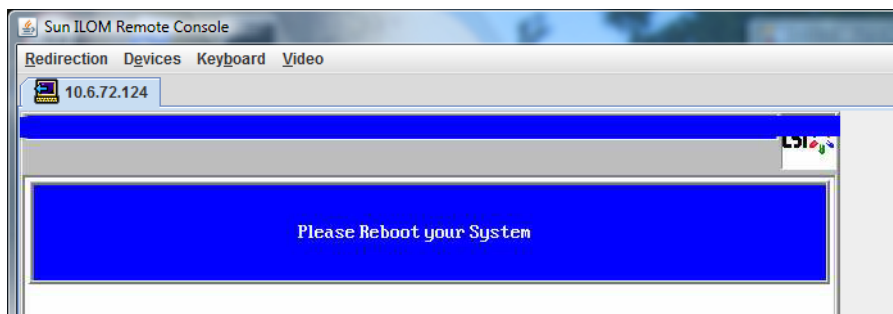
- 24 「Yes」をクリックして終了します。



- 25 「Please Reboot Your System」と表示されたら、Alt キーを押しながら B キーを押して、キーボードプルダウンメニューを表示させます。



注意 - この手順を実行しない場合は、次の手順で「Control Alt Delete」を選択したときにローカルマシンが再起動されます。



- 26 矢印キーを使用してメニュー内の「Control Alt Delete」を選択し、リモートシステムを再起動します。Enterを押します。

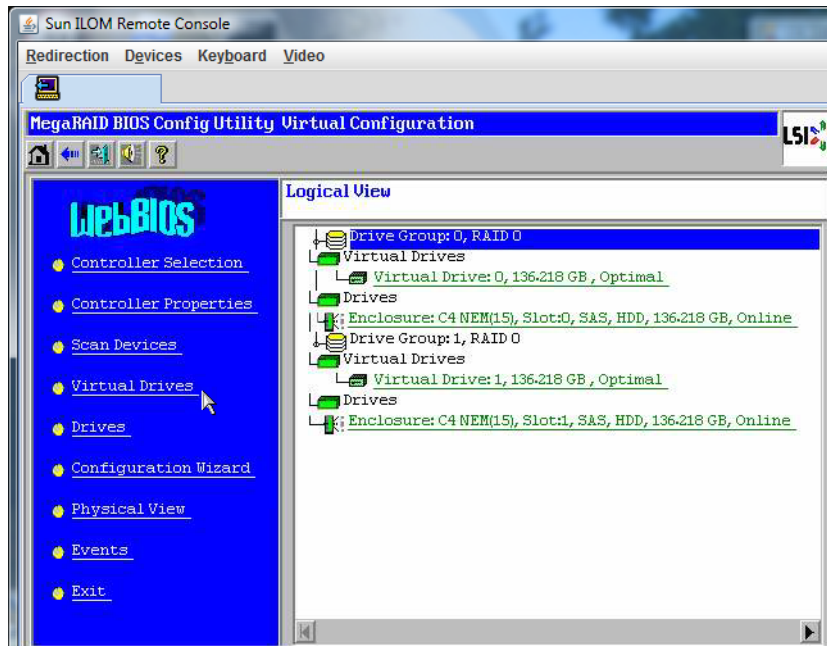


- 27 元の画面に戻り、マウスモードを「Absolute」に設定します。
- 「Remote Control」画面で「KVMS」タブを選択します。
 - 「Mouse Mode」で「Absolute」を選択します。
 - 「Save (保存)」をクリックします。

▼ ブートドライブを設定する方法

作成した仮想ドライブにオペレーティングシステムをインストールする場合は、ドライブをブートドライブとして設定する必要があります。

- 1 「Configuration Wizard」画面で「Virtual Drives」を選択します。



「MegaRAID BIOS Config Utility Virtual Drives Configuration」画面が表示されます。

- 2 オプションの1つとして「Set_Boot Drive (current=none)」が表示されているかどうかを確認します。
「Set_Boot Drive (current=none)」オプションが表示されている場合は、ブートドライブが設定されていません。



- 3 「Set_Boot Drive (current=none)」をオンにして、「Go」をクリックします。

Solaris 10 OS のインストール作業

次の表に、Solaris のインストールの作業マップを示します。

タスク	説明	指示書
サーバーをセットアップします。	サーバーハードウェアを設置し、サービスプロセッサを設定します。	『Sun Fire X4800 サーバー設置マニュアル』
『Sun Fire X4800 サーバーご使用にあたって』を確認する。	このドキュメントには、Solaris OS ソフトウェアおよびパッチに関する最新情報が記載されています。	『Sun Fire X4800 Server Product Notes (Sun Fire X4800 サーバーご使用にあたって)』
インストール方法を選択する。	インストール方法を選択し、手順を確認します。	30 ページの「インストール方法の選択」
Solaris OS のインストールマニュアルを特定する。	ソフトウェアに添付されている Solaris OS のマニュアルには、インストールについて知っておく必要のある情報の大部分が記載されています。	31 ページの「Solaris 10 ドキュメントの入手方法」
各ネットワークインタフェースの論理名と物理名を特定する。	OS のインストール時には、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名と物理名 (MAC アドレス) を指定する必要があります。	32 ページの「Solaris OS インストール用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」
必要な OS パッチをインストールする。	Sunsolve で OS の最新のパッチを確認します。 注 - Solaris 10 10/09 OS で Solaris FMA (障害管理アーキテクチャ) を使用するには、OS のインストール後に 142901-09 以降のパッチをインストールする必要があります。	http://sunsolve.sun.com/

インストール方法の選択

このサーバーは、次に示す Solaris OS インストール方法をサポートしています。

- 『Sun Fire X4800 サーバー設置マニュアル』の「オペレーティングシステムのセットアップ」の説明に従って、ハードドライブ上にプリインストールされている Solaris 10 10/09 OS イメージから起動します。
- DVD または CD-ROM メディアから、Solaris のインストールプログラムに表示される手順に従って 1 台のサーバーにインストールします。

Solaris 10 OS DVD または CD に収録されている Solaris インストールプログラムは、グラフィカルユーザーインタフェース (Graphical User Interface、GUI) を使用して、またはリモートコンソールで対話式テキストインストーラとして実行できます。Solaris Device Configuration Assistant は、Solaris インストールプログラムに含まれています。

- PXE (Preboot Execution Environment) 技術を利用して、次の方法により、ネットワーク経由で 1 台または複数台のサーバーにインストールします。
 - リモートの DVD イメージまたは CD イメージから、ネットワーク経由で Solaris のインストールプログラムを使用します。
 - JumpStart を使用したインストール
 - ディスクレスブートを実行します。
 - シリアルコンソールを使用したインストール

注 - Solaris OS には、広域ネットワーク (WAN) を経由したブートなど、その他のインストールプログラムが用意されていますが、サーバーでは本書に記載された方法のみがサポートされています。

次の表に、Solaris OS のインストールに利用できるインストール方法を示します。

方法	説明	指示書
プリインストールイメージからブートします。	設定によっては、Solaris OS のイメージがハードドライブにプリインストールされている場合があります。	『Sun Fire X4800 サーバー設置マニュアル』
DVD メディアまたは CD-ROM メディアからインストールします。	DVD または CD-ROM にある Solaris のインストールプログラムを使用して、表示される手順に従って 1 台のサーバーにインストールします。	『Solaris 10 10/09 インストールガイド (基本編)』の x86 のインストール手順に従います。

方法	説明	指示書
PXE を使用してネットワークからインストールします。	リモートの DVD イメージまたは CD イメージからネットワーク経由で Solaris OS をインストールする場合、または JumpStart によりインストール処理を自動化し、複数のシステムにインストールする場合は、PXE インストールを実行する必要があります。	『Solaris 10 10/09 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』の x86 PXE のインストール手順に従います。
	PXE を使用してネットワーク経由でブートするには、インストールサーバーと DHCP サーバーをセットアップし、ネットワークからブートする各サーバーで BIOS を構成する必要があります。	
	PXE ベースのネットワークインストールでシリアルコンソールを使用して Solaris OS をインストールします。	『Solaris 10 10/09 インストールガイド (ネットワークインストール)』の x86 PXE のインストール手順に従います。
	ハードドライブを使用せずに、サーバーで Solaris OS をブートします。この方法は、PXE ベースのネットワークインストールで使用します。	『Solaris 10 10/09 インストールガイド (ネットワークインストール)』の x86 PXE のインストール手順に従います。

関連項目:

- 31 ページの「Solaris 10 ドキュメントの入手方法」
- 32 ページの「Solaris OS インストール用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」

Solaris 10 ドキュメントの入手方法

Solaris 10 OS のマニュアルは、Web サイト (<http://docs.sun.com/>) から入手できません。

指定されている場合は、必ず x86 システムに固有の手順に従ってください。

- Solaris 10 のインストールガイドについては、『Solaris 10 10/09 Release and Installation Collection (Solaris 10 10/09 リリースおよびインストールのドキュメントコレクション)』を参照してください。

- Solaris 10 の管理者ガイドについては、『Solaris 10 System Administrator Collection (Solaris 10 システム管理者コレクション)』を参照してください。
- システムのアップグレードについては、『Solaris 10 10/09 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』を参照してください。
- トラブルシューティングについては、『Solaris 10 10/09 インストールガイド (カスタムJumpStart/ 上級編)』の「付録 A」を参照してください。
- パッチおよびその他の最新情報については、『Sun Fire X4800 サーバーご使用にあたって』を参照してください。パッチと説明は、<http://www.sunsolve.sun.com> にある SunSolve のパッチポータルで入手できます。

Solaris 10 のマニュアルは、Solaris OS ソフトウェアに添付されている Solaris Documentation DVD にも収録されています。

Solaris OS インストール用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定

ネットワークに接続されたサーバーのオペレーティングシステムの設定時には、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) を指定しなければならない場合があります。ここでは、この情報を取得する方法を説明します。

- 32 ページの「論理および物理ネットワークインタフェース名の特定方法」

▼ 論理および物理ネットワークインタフェース名の特定方法

論理名および物理名 (MAC アドレス) を含む、MAC アドレスとネットワークインタフェースに関する情報を表示するには、この手順を使用します。

- 1 「Install Type (インストールタイプ)」メニューで、「Option (6) Single User Shell (オプション (6) 単一ユーザーシェル)」を選択して、**Enter** を押します。

注-別の方法として、これらのコマンドをコマンドシェルから実行することもできます。

OS インスタンスのマウントに関するメッセージが表示されたら、**q** を選択します。OS インスタンスはマウントしません。

メッセージ "Starting Shell" が表示されます。次の図は例を示しています。

```
1. Solaris Interactive (default)
2. Custom JumpStart
3. Solaris Interactive Text (Desktop session)
4. Solaris Interactive Text (Console session)
5. Apply driver updates
6. Single user shell

Enter the number of your choice.
Selected: 6

Single user shell.

Searching for installed OS instances...

Multiple OS instances were found. To check and mount one of them
read-write under /a, select it from the following list. To not mount
any, select 'q'.

 1 /dev/dsk/c2t0d0s0 Solaris 10 6/06 s10x_u2wos_08 X86
 2 /dev/dsk/c2t1d0s0 Solaris 10 6/06 s10u2_08-0N-WDS X86

Please select a device to be mounted (q for none) [?,??,q]: q

Starting shell.
#
```

- 2 コマンドプロンプト(#)で次のコマンドを入力して、すべてのネットワークインタフェースを **plumb** します。

```
# ifconfig -a plumb
```

注-plumb プロセスには時間がかかることがあります。

- 3 コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# ifconfig -a
```

Solaris の名前付きインタフェースおよび MAC アドレスの出力が表示されます。たとえば、次のように入力します。

```
# ifconfig -a | more
e1000g0: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> mtu 1500 index 2
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a1:ee
e1000g1: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> mtu 1500 index 3
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a1:ef
e1000g2: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> mtu 1500 index 4
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a5:d6
e1000g3: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> mtu 1500 index 5
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a5:d7
e1000g4: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> mtu 1500 index 6
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a1:4e
e1000g5: flags=1000842<BROADCAST,RUNNING,MULTICAST,IPv4> mtu 1500 index 1
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a1:4f
e1000g6: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> mtu 1500 index 7
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 8:0:20:b6:ce:94
e1000g7: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> mtu 1500 index 8
    inet 0.0.0.0 netmask 0
```

上の出力例では、以下のようにになっています。

- 最初の列の `e1000g#` エントリは、Solaris 論理名付きインタフェースです。出力の最初の列は、Solaris がネットワークインタフェースに割り当てた論理名を表します。
- 2 列目 (3 行目) の `ether #:#:#:#:#` エントリは、ネットワークポートの物理 MAC アドレス名です。

たとえば、次のように入力します。

Solaris の名前付きネットワークインタフェース「`e1000g0`」の物理 MAC アドレスは、「`0:14:4f:c:a1:ee`」です。

- 4 この情報をファイルに保存するか、書き留めます。
- 5 最後に、システム設定スクリプトを開始するには、コマンド行に「`sys-unconfig(1M)`」と入力します。
このコマンドは、システム設定を工場出荷時のデフォルトに復元します。



注意 - `sys-unconfig(1M)` コマンドを実行するとシステムが停止し、工場出荷時の設定が復元されます。このコマンドは、システムを再構成する場合以外は実行しないでください。

たとえば、次のように入力します。

```
# sys-unconfig
```

```
WARNING
```

```
This program will unconfigure your system. It will cause it  
to revert to a "blank" system - it will not have a name or know  
about other systems or networks.
```

```
This program will also halt the system.
```

```
Do you want to continue (y/n) ?
```

システムが再起動され、設定スクリプトが開始されます。

